



彌榮自動車株式会社 (ヤサカタクシー)

笑顔をつなぐお手伝い～得意の観光分野で京町家の魅力を伝える～

当コーナーでは、商品の売上の一部が京町家まちづくりファンドへの寄附となる寄附付き商品を取り扱っていただいている企業の皆様方の、京町家や京都のまちづくりに対する思いをご紹介します。

今回は、明治末年に京都で創業し、三つ葉のマークのタクシー・ハイヤー、観光バスでおなじみの彌榮自動車株式会社 不動産部不動産課長の熊谷保さんにお話をうかがいました。

彌榮自動車では、所有する二寧坂の伝統的な日本家屋を「スターバックスコーヒー 京都二寧坂ヤサカ茶屋店」として平成29年6月30日にオープンし、注目を集めています。

今回はオープン間もない店内で取材をさせていただきました。



熊谷 保さん

京町家まちづくりファンドにご協力いただいた理由は？

二寧坂の建物の活用に取り組む中で、京都市景観・まちづくりセンター（まちセン）との出会いがありました。ヤサカの得意分野で京町家の保全活動に協力できればと考え、寄附付き「京町家」観光タクシープランを提案させていただきました。京町家などの伝統的な建物と地域のつながりこそが京都のまちの魅力だと実感しています。



伝統的な空間をいかしたスターバックス京都二寧坂ヤサカ茶屋店の客席

寄附付き「京町家」観光タクシープランとは？

「京町家」は外国人のお客さまも関心が高いテーマですが、プライベートな空間なので、これまで観光プランとしてとりあげることはなかなかできませんでした。

本プランでは、まちセンからご紹介いただいた「京町家」を「伝統産業」と組み合わせることで、京町家での実際の暮らしを感じていただく趣向です。観光プランを利用するだけで「京町家の保全活動」にも参加できる点がポイントです。

京町家の保全・活用に関する今後の取組について

昨年、まちセンの主催で観光タクシー乗務員向けの京町家研修をしていただきました。京町家には「京都」を読み解くあらゆる要素が満載ですので、お客さまをご案内する乗務員も「京町家」に強い関心を持っています。タクシーならではの柔軟性と機動性を活かした多彩なプランを創っていききたいと思います。二寧坂の建物を監修していただいた、伝統建築に数多く携わられている建築士さんとも相談し、「まち歩き」と組み合わせたプランを考えているところです。

◆寄附付き商品の内容：「京町家と伝統産業」応援プラン
料金の一部が、京町家の再生と京都らしい町並みの保全に寄附されます。
[11:30～13:00] 京都駅又は京都市内指定場所よりご出発→ご希望の場所を観光→「陶点晴かわさき」にてご見学・お買い物→[14:30～16:00] 京都市内指定場所にご到着



平成29年度賛助会員募集中！

入会をご希望の方はまちセンにお問合せいただくか、ホームページをご覧ください

賛助団体のみなさま

<td>平安建材株式会社</td> <td>京都駅ビル</td> <td>京町家居住支援者会議</td> <td>公認社団法人 京都市観光協会</td> <td>be-kyoto</td>	平安建材株式会社	京都駅ビル	京町家居住支援者会議	公認社団法人 京都市観光協会	be-kyoto
ホームライフおめばす 株式会社 龍八工房	大阪ガス	一般社団法人 京都府不動産 コンサルティング協会	RITSUMEIKAN	京町家をお探します。 株式会社 八瀬(ハチセ)	IATSS FORUM
株式会社アーキスタイル	京都信用金庫	SAPPORO			

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127
京都市下京区西木町通上ノ口上る梅渡町83番地の1
(河原町五条下る東側) ひと・まち交流館 京都 地下1階
TEL: 075-354-8701 FAX: 075-354-8704
E-mail: machi.info@hitomachi-kyoto.jp
HP: http://kyoto-machisen.jp



センターへお越しの際は公共交通機関をご利用ください。

京都市景観・まちづくりセンター



公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

京まち工房 80

パートナーシップで進めるまちづくり



特集
顔の見える安心感のある
成逸学区のまちづくり
(P2-3)

- ☑ クラウドファンディング支援事業 4
- 🏠 京町家再生事例 5
- 👤 地域まちづくり・京町家の専門家紹介 6
- 📣 まちセンからのお知らせ 7

こちよいまちを目指して

顔😊の見える安心感のある 成逸学区のまちづくり

成逸学区（上京区）では平成26年から防災まちづくりに取り組み、平成29年3月に「成逸『路地・まち』防災まちづくり計画」を策定しました。これまでの長年にわたる取組の成果として、平成29年2月に「防災まちづくり大賞消防庁長官賞」を受賞しました。今回は成逸学区のこれまでの活動全般を振り返りながら、進化を続けるまちづくりをご紹介します。



成逸学区ってこんなところ

成逸学区は、京都市上京区の北西部に位置し西陣の一角にあります。西陣織との関係が深い歴史のあるまちで、低層木造住宅が比較的多いため路地も多く見られますが、最近はマンションも増加しています。成逸住民福祉協議会は昭和48年に設立され、平成19年に成逸まちづくり推進委員会が設立されてからは「わたしのまちに町内会があって良かったと思えるまちづくり」を目標に、成逸学区に住み、働き、訪れる人に心地よいと思えるまちづくりを進めています。

みんなで守り支え合ふまちづくりの取組

福祉防災マップ

- ・町内会ごとに、消火設備の場所、災害時に避難支援の必要な方の情報を記載
- ・数年おきに改訂

成逸「路地・まち」防災まちづくり計画

- ・地蔵盆調査で改めて学区内に路地が多いことを再確認
- ・平成26年防災まちづくり調査開始
- ・空き家の実態調査、路地や袋路の防災課題を調査
- ・町内会単位での防災課題共有のワークショップ開催
- 平成29年3月に計画策定



平成 16年	福祉防災マップ作成
平成 19年	成逸まちづくり推進委員会設立 せいつつ方式開始 避難所運営マニュアル取組開始
平成 20年	せいつつ住まい交流会開始
平成 25年	「みんなの居場所 ほっとせいつつ」開始 避難所運営マニュアル改定①
平成 26年	成逸学区防災まちづくり計画取組開始
平成 28年	避難所運営マニュアル改定②
平成 29年	防災まちづくり大賞消防庁長官賞を受賞 成逸「路地・まち」防災まちづくり計画策定

成逸学区 避難所運営マニュアル

- ・新潟中越沖地震（2007年）がきっかけ
- ・全国の事例のヒヤリングや、専門家の講演会等で知識を身につけながら、住民主体で避難所運営マニュアルを策定（全国初）
- ・住民主体での避難所開設、運営について基本ルールを確認
- ・東日本大震災、熊本地震の教訓を踏まえ、2度改訂

防災まちづくりは、マップやマニュアルづくりが目的ではありません。その過程で住民が防災知識や情報を共有すること、絶えず新しい情報を取り入れ改訂することが重要です。福祉マップは町内会長の協力を得て更新されています。毎年マニュアルに沿った防災模擬訓練を行い検証しながら、いざという時にすぐに行動できる体験を住民同士で共有しています。訓練と共に行うアンケートから出た意見も反映しマニュアルも改訂を重ね、直近では在宅避難者への支援やペット同伴避難の項目を盛り込み、絶えず進化を続けることを心がけています。



成逸学区の支援に携わるまちづくり専門家：石本幸良さん

取組でのところがけ

1 顔の見えるお付き合い

マンションが増えても町内会加入者が減少したため、平成19年度から、新築マンション居住者にも町内会員となってもらおう仕組み「**せいつつ方式**」を開始しました。

新しい住民の方に地域をご理解いただくため、地域の方と交流する「**せいつつ住まい交流会**」の開催や、誰でも参加できる地蔵盆、夏祭り、おもつきなどの催しを通じて、まずは顔見知りになる機会をつくり、交流を進めています。



夏祭り

2 楽しみながら協働体験

毎年行う防災訓練も、若いファミリーに楽しんで参加してもらえるよう、工夫しています。なまずに押しつぶされた手づくりのカエルの人形を助け出す救助訓練「**防災クレンジャー**」や、スタンプラリー、防災劇など、みんなが楽しんで協働体験ができる試みの積み重ねが、地域の絆を深めています。



「防災クレンジャー」の様子

3 多くの人が支えあう

町内会の皆さんには仕事や家庭があり、その合間を縫って地域のために働いています。息の長い活動を続けるために、住民同士で話し合い、それぞれ役割を担い支え合いながら、取組を進めてきました。成逸らしいまちづくりを進めるため、自分達の地域の悩みをよく理解し、客観的なアドバイスができる、まちづくり専門家や京都市景観・まちづくりセンター（まちセン）、区役所と相談し検討しながら、取組を続けてきました。



みんなの憩いの場づくりも

平成25年から、お茶を飲みながら歓談を楽しめるみんなの居場所「**ほっとせいつつ**」の取組も始まりました。

空き家の所有者が取組に賛同し場所を提供してくれたことや、運営に地域の方だけでなく北総合支援学校の生徒さんや福祉施設が参加してくれたこと等、みんなの協力で憩いの場が運営されています。

顔の見える関係づくりの取組が空き家の活用にもつながり、活動の広がり一役買っています。



「ほっとせいつつ」での催し

住民福祉協議会役員のみなさんに聞きました！



成逸住民福祉協議会 会長 山元 國隆さん	成逸自主防災会 会長 牧本 晴男さん	成逸住民福祉協議会 副会長 川田 雄司さん
----------------------------	--------------------------	-----------------------------

今年3月に策定した「成逸『路地・まち』防災まちづくり計画」も踏まえ、個人、町内会、学区で、それぞれができることに取り組んでいきたいです。空き家や袋路などでの災害時の避難方法等の課題について話し合い、地域の賑わいや活力を高める取組も、専門家にアドバイスをいただき、京都市やまちセン、区役所などと連携を図りながら進めたいと思います。多くの方が、防災などの身近な問題を通じて、住み心地のよい成逸のまちを共に考え、共に取り組む仕組みづくりをこれからも行っていきたいです。



喜多見すみ江さん

きさこ和東 「人と地域をつなぐ町家」

第1回京町家まちづくりクラウドファンディング支援事業 選定第1号

空き家だった京町家が 一棟貸しの旅館「**蔵や南聖町**」に

京都市景観・まちづくりセンターが「京町家まちづくりクラウドファンディング支援事業」の第1号に選定した中京区の京町家が、平成29年7月下旬に一棟貸しの旅館「蔵や 南聖町」としてオープンしました。

選定の際には、すぐ工芸の老舗「清課堂」のオープンファクトリーを併設し、職住一体の京町家の伝統継承、近隣の京都三条会商店街との連携など、地域活性化や周辺経済への波及効果を期待できる点が評価されました。

本建物は大正時代に建てられ、十数年前までは電気製品を製造する工場として稼働していましたが、その後空き家となっていました。

改修工事は昨年12月に始まり、老朽化した外観を全体的に修繕し、出入口を格子戸にしていますが、柱や梁などの骨組みはそのまま活用しています。また、2階の床を一部撤去し、既存の火袋とあわせて、ダイナミックな吹き抜け空間をもった町家旅館に生まれ変わりました。

一棟貸しの旅館ですので、事務所や一戸建て住宅などに転用することも可能で、将来にわたり、この建物を継承していくことができます。



事業者(株)中蔵の京町家再生への思い

今回の町家再生は、住宅であった部分を一棟貸しの町家旅館に、工場であった部分は切り離し、以前からものづくりの場であったことを引き継ぎ、すぐ工房に改修しました。町家旅館にいられた方にすぐ工房を公開し、世界に発信していただきたいと考えています。

今回私共は、京都市民のみならず全国の方に広く、この地域と建物の歴史そして京都のものづくりを知っていただくためにクラウドファンディングを活用しておりますが、全国各地のファンに応援していただくことで、空き家問題の解決、また地域活性化につながると考えております。

①「京町家まちづくりクラウドファンディング支援事業」とは

京都市景観・まちづくりセンターにおいて平成28年から取り組んでいる事業で、インターネットを通して不特定多数の方から資金の提供を受ける「クラウドファンディング」の仕組みを利用して、京町家の改修費用を集めようとする事業者の支援を行うものです。

今年度の「京町家まちづくりクラウドファンディング支援事業」の受付は平成29年12月22日(金)午後5時までです。申請スケジュールや事業の要件・手続などの詳細につきましては、当財団までお問合せください。



建築基準法適用除外制度に係る新基準を初適用！

この度、市指定文化財である長江家住宅主屋北棟において、本年4月から運用している包括同意基準を初適用して建築基準法を適用除外し、簡易宿所として保存活用することになりました。本制度において、本基準を活用していただくことで、京町家の意匠や形態を保存しながら水廻りの増築や用途変更を行う際の法適用除外の手続がスムーズとなります。

お問い合わせ先：京都市建築指導課 ☎075-222-3620



今回は、東山区の本町通に面した町家をカフェ&ギャラリー「きさこ和東」として再生された喜多見すみ江さんの事例を紹介します。ご主人の生家を引き継いで活用することとなった経緯や、活用をきっかけとしたさまざまな交流についてお話をうかがいました。



改修前の喜多見家

きさこ和東 外観

① 調査を通じて気づいた魅力

この町家は亡くなった主人の生家です。主人と結婚した当初に少し住みましたが、私達夫婦はその後和東町に移り住み、この町家では主人の母が亡くなるまで暮らしていました。

母が亡くなって大きな町家と敷地奥の空き地が残り、どうしてよいのか途方にくれていたとき、京都市景観・まちづくりセンターの窓口相談したんです。すると、貴重な町家だからと調査をしていただくことになりました。

調査をする前は古い家だ、としか思っていなかったのですが、調査員さんにこの町家のすばらしいところを教えてください、愛着を感じるようになりました。そして、他人に託すのではなく自分でこの町家を活用していきたいという気持ちが強くなっていきました。

② 文化財マネージャーの提案を受けて

調査の後、京都市文化財マネージャー育成講座の演習の一環として活用提案をしていただくことになりました。

当時最も頭を悩ませていたのは敷地奥の空き地の活用だったのですが、演習の中で貸農園にしてはどうかと提案をいただきました。その時はあまり関心を持っていなかったのですが、知り合いの助言もあり、思い切って貸農園を始めてみることにしました。

最初の年に5組の方が借りてくださったのではずみがつき、町家の改修に踏み切ることができました。



貸農園で野菜を収穫する

③ 元に戻せる改修を

町家の活用を考えたとき、子育てをせずと暮らし続けている和東町に恩返ししたいという思いがあり、和東のお茶や自然を京都で紹介するカフェ&ギャラリーにしました。

建物にすっかり愛着を持っていたので、カフェスペースも畳敷や床の間を残すなど、住んでいたときの雰囲気が残るように設計をお願いしました。この先カフェをやめても、また住居として使えるようにしたかったのです。とはいえ、畳敷部分と廊下の段差をなくすなど、見えないところに手を掛けていただいています。



ゆったりくつろげる畳敷のカフェスペース

④ 人と地域をつなぐカフェとして

オープンから1年近くが経ちました。いろんな方にご来店していただけるようになり、近所での知り合いも増えました。カフェにいられたのをきっかけに、和東町を訪れてくださった方もいます。お客様からは、「残っているのは外観だけで中は町家とは程遠いお店が多いけど、ここはそのままですね」と喜んでいただいています。

最近は茶道体験やセミナーなどで団体の方にご来店いただくことも多くなってきました。先日は中国の子供達が茶道体験に来てくれたんですよ。

これからも、この町家からいろいろな人や地域とのつながりを広げていけたらいいな、と思っています。



きさこ和東で開かれた京町家専門講座の様子

京町家に寄り添った暮らしを

当財団は多くの専門家の方々のご協力のもと、地域のまちづくりや京町家の保全・再生に関わる事業を行っています。このコーナーでは、豊富な経験や知識、また熱い思いをもって京都のまちに関わっておられる専門家の方々をご紹介します！

今回はこの方！



富田 貫之氏 (一級建築士事務所 KANZI)

設計事務所を主宰するかたわら京町家専門相談員として京町家カルテの作成などに協力いただいています。また、お住まいの地域で「祇園新橋景観づくり協議会」副代表、「白川を美しくする会」会長を務め、顔の見える地域の関係づくりや祇園新橋の景観を守る活動に力を入れておられます。
※平成29年3月発足

この仕事に入るきっかけ

建築の設計をすすめるうえで、京町家のように誰もが美しいと思う建物を、どうすればデザインできるのだろうかと考えようになったことがきっかけです。設計士やデザイナーという職業もなかった時代に、どのようなプロセスでそれを進めたのだろうか、ということに興味を持ちました。



祇園新橋の町並み

京町家に思うこと

洗練された意匠、素材の味わい、四季を感じる工夫、光と陰……。京町家には、様々な良さがあります。一方で暗い、寒いなど、住環境が現代に合わない場合もあります。日々の暮らしの中では、短所ばかりが目が行きますが、ふと、良い面に触れると、もうちょっとおおらかに、もっと周りにも目を向けんとあかん、と思うことがあります。

住みやすさは大切ですが、京町家にもう少し寄り添ってもいいかなとも思います。まずはそのまま受け入れ、建物に合わせて暮らすことで、自分自身に向き合えることもあるのではないのでしょうか。

特にここ数年、街なかを自転車で走っていると、京町家が解体される土埃の臭いがして、ここもか！ということが増えました。安易に京町家を潰すことは避けてほしいのですが、これからも美しいものを作り続けるんだ、という京都人の心意気は見せてほしいものです。

建築現場で心がけていること

京都がその長い歴史の中で育んできた技を職人さん達は継承されているので、現場ではその引き出しをいかしてもらえよう、環境を整えることに気を使っています。こちらの思いを「こんな感じにしたいんやけど……」と伝えると、職人さんが「こんななんあるけど、どう？」みたいに outcomes してくれと嬉しいですね。たいていはコッソリやったはりますが(笑)。



建築以外の活動を通じて

私の住む町内には男手が少なく、地域の活動に期せずして携わることになりました。地域でお世話する辰巳大明神では年に4回の祭礼があります。子どもが減ったとはいえ、地蔵盆も大切にしています。そのため、少なくない時間を割かなければなりません、これらの活動が今日でも地域のつながりを残してくれているのだと実感しています。この春に「祇園新橋景観づくり協議会」を設立させていただいたのも、地域の人々とのつながりのおかげだと思います。

また、人との関わりが強い分だけ「おたがいさま」という、互いにリスペクトする気持ちが身についてきたことも感じます。その程よい距離感・緊張感が、祇園新橋「らしさ」を醸し出しているのではないのでしょうか。

その「らしさ」は、例えば、簾などの設えを整えとか、目をむくような看板を出さないなど、町並みの中にも見つけることができますが、現状では失われつつあることが、少し残念に思います。

これからも「おたがいさま」の気持ちを大切に、「らしさ」を見失わないまちづくりをしていきたいと願います。



祇園新橋景観づくり協議会認定式の様子



辰巳大明神のお祭り準備

祇園新橋景観づくり協議会に至るまでの活動は『京まち工房』71号に掲載されています。

就任ご挨拶

みなさんこんにちは。本年6月に専務理事に就任しました宮川邦博です。都市計画局や建設局で、さまざまな事業に携わってきました。

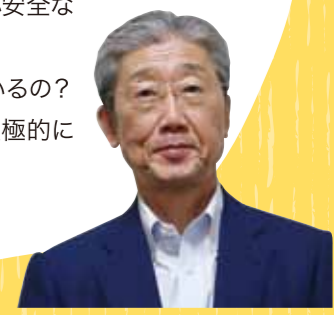
京都市景観・まちづくりセンター、通称「まちセン」は、今年で設立20周年を迎えます。

「まちづくりや京町家のお困りごとはありませんか」

「まちセン」では、住民のみなさんが自主的に地域のまちづくりについて話し合ったり、地域のルールを決めたりなどの地域のまちづくりを進めるお手伝いや、京町家などの建物の保全や改修についてのご相談をうかがっています。

「まちセン」が何でもできるわけではありませんが、今まで積み上げてきたまちづくりに対するノウハウがありますし、地域と行政、専門家、事業者、市民団体などをつなぐネットワークもあります。この強みをいかして、みなさんと共に美しく安心安全な京都の実現に向けて取り組みます。

就任以来、「まちセン」の名前は聞いたことがあるけれど、どんなことをしているの？というお尋ねをたくさんいただきました。これからも「まちセン」の取組を積極的に発信して、「見える化」に努めていきますのでよろしくお願ひします。



京都市景観・まちづくりセンター専務理事 宮川 邦博



平成9年10月1日に設立された京都市景観・まちづくりセンターは、今年で設立20周年を迎えます。

節目の年を記念し、「つなぐ、つながる、こえていく」をテーマに、トークライブ、ビブリオバトル、シンポジウム、新春公開座談会、京町家まちづくりファン祭り、数々のイベントを予定しています。詳細は、**特設ホームページ**でご案内していきます。

設立20周年のロゴマークには、京都らしい景観を守り、伝えていく当財団の使命を、京町家の格子をモチーフに表現しました。

20年間の歩みを振り返り、感謝の思いとともに、これからも景観・まちづくりの取組を進めてまいります。

どうぞよろしくお願ひいたします。

★ 20周年記念イベント ★	
9/27(水)	トークライブ
10/11(水)	
10/25(水)	
11/ 4(土)	まちセンビブリオバトル キックオフイベント
11/25(土)	シンポジウム「文化による地域創生とまちづくりの未来」
1/13(土) (予定)	新春公開座談会 「夢を語る-京都の景観・まちづくり・京町家」
2/10(土) (予定)	京町家まちづくりファン祭り

特設ホームページはこちら
<http://kyoto-machisen.jp/20th/>
 イベント詳細など、随時更新予定です！